

2024年5月 第23回関西大会報告

日時 2024年5月11日(土)

場所 大阪キャッスルホテル・7F



5月11日(土)午後1時半、気温23度、見渡す限りの青空、大阪は天満橋のキャッスルホテル7階にて、第23回関西大会が開催されました。当初申し込みの人数より減少したものの96名の参加がありました。ちなみに同ホテル6階での懇親会には58名が参加しました。

第1部の司会は武西良和氏。たかとう匡子氏の開会の言葉に始まり、太田雅孝会長、秋山公哉理事長の挨拶と続き、今年度日本詩人クラブ賞受賞の松岡政則氏、同新人賞受賞の井嶋りゅう氏の詩朗読と進みます。松岡氏は都合により代読となりました。さて当日の目玉は四元康祐氏の講演「現代詩の行方・海外新事情」です。四元氏は大学卒業後アメリカに留学され、その後はドイツでの会社勤務の傍ら詩を書かれ、『世界中年会議』で一躍脚光を浴びられました。詩のほかにも翻訳、エッセイ、小説とその活動は多岐にわたっています。今回は昨年参加したアメリカの作家レジデンシー、昨年暮れに訪問した香港の高校・大学での詩の授業、そして刊行準備中のミャンマー証言詩集のことなどを中心に話されました。

第2部の司会は神田さよ氏。第1部の話を引き継ぐ形で、神戸市在住の季村敏夫氏との対談です。これが3回目の出会いとなったことから、これまでの主な活動、共通の人物などの話題を交えながら現代詩について熱く語り合います。最後はお互いが気に入っている詩を交換し合って朗読するという形で1時間足らずの対談を締めくくりました。

次いで自作詩朗読です。藤井雅人(京都)、高木敏克(兵庫)、正岡洋夫(大阪)、壺阪輝代(岡山)、根来真知子(京都)の各氏は、いずれもベテラン詩人、朗読にも安定感が見受けられました。引き続き新入会員の紹介、次回地域大会の案内とプログラムは予定の時間通り

に進み、大会は盛況のうちに無事幕を閉じました。

(文責・関西大会・関西例会担当理事 松村信人)
「詩界通信」107号より転載



四元康祐氏の講演



対談風景 (左) 四元康祐氏・(右) 季村敏夫氏



太田雅孝会長
挨拶



開会の言葉
たかとう匡子氏



受賞者朗読
代読・今野和代氏



受賞者朗読
井鳴りゆう氏



司会
武西良和氏



司会
神田さよ氏



詩の朗読
藤井雅人氏



詩の朗読
高木敏克氏



詩の朗読
正岡洋夫氏



詩の朗読
壺阪輝代氏



詩の朗読
根来眞知子氏



次回地域大会案内
嵯峨京子氏



閉会の言葉
松村信人関西大会理事



講演者
四元康祐氏



対談者
季村敏夫氏